

大会注意事項

【2026(R8)年2月改訂版】 Ver1.0

目黒区少年軟式野球連盟公式戦は、本書の取決め事項および「公認野球規則・公益財団法人全日本軟式野球連盟の競技者必携」を適用する。但し、本書記載の規定事項を優先とする。

《前版からの変更箇所》

【I 競技運営に関する注意事項】

3. ベンチ入り人数

- (1) 統一されたユニフォームを着用した監督、コーチ 及び 選手9名以上25名以内と、チームユニフォームを着用しない引率責任者、スコアラーの各1名とする。

4. ベンチ・攻守の決定

- (1) トーナメント戦のベンチは組み合わせ番号の若い方を1塁側、他方を3塁側とする。
- (2) リーグ戦のベンチは日程表の左側を1塁側、右側を3塁側とする。
- (3) トーナメント戦、リーグ戦共に、攻守は審判員の立会いのもと両チームの主将(不在時は代理)によるジャンケンで攻守を決定する。

9. 規定回数、試合時間

- (3) 学童部(低学年) . . . 規定回数：5回戦、制限時間：70分

【注1】低学年大会は、制限時間規定の適用時でも最低1回の表裏を終了させること。

【注2】低学年大会(春季・秋季共に)は、アウトカウントに関わらず、1回10得点で攻守交替とする。

17. 投手の投球制限

(2) 学童部

1週間の投球数…210球以内(4年生以下は180球以内)とする。運用は[別紙3]に拠る。

【V グラウンドでの取り決め事項】

2. 試合前の練習及び練習場所・空きスペースの利用等

(1) 砧球場

- ② 試合前のグラウンドでの練習は、次の試合のチームにのみが行える。

中略

サイドノックを行なう際、選手が補助員を行なう場合は、

ヘルメットを着用する必要がある(碑文谷球場も同じくヘルメットを着用すること)。

M.S.B.B.
目黒区少年軟式野球連盟

目次

【Ⅰ 競技運営に関する注意事項】	2
1. チームの編成 背番号	2
2. 選手登録	2
3. ベンチ入り人数	2
4. ベンチ・攻守の決定	2
5. 全日本大会・スポ少大会のシード権の規定	2
6. リーグ戦規定	3
7. 集合・メンバー表の提出	3
8. 棄権	3
9. 規定回数、試合時間	4
10. 試合の成立	4
11. 給水タイム	4
12. 特別方式(タイブレーク方式)と抽選による勝敗の決定	4
13. 得点差によるコールドゲーム	4
14. 特別継続試合	4
15. 抗議のできる者	4
16. 試合準備(ベンチ入り後のグラウンド内立ち入り)	4
17. 投手の投球制限	5
18. タイム(回数制限等)	5
【Ⅱ 用具、装具、ユニフォーム等について】	5
1. バット	5
2. 捕手の装具	6
3. ヘルメット	6
4. 使用することができない用具	6
5. 試合前の用具点検・確認	6
6. ユニフォーム及び、スパイク等	6
7. ベンチ内でのスコア記録のための電子機器使用	7
【Ⅲ 禁止事項、試合のスピード化等、その他に関する注意事項】	7
1. 学童部投手の変化球	7
2. ネクストバッターズサークル(次打者席)	7
3. バッターボックス	7
4. 攻守交代	7
5. 前進守備時の野手の位置	7
6. バッテリーのサイン交換	7
7. 準備投球	7
8. ベンチでの準備(練習)投球	7
9. ボーク	7
10. 本塁打の打者走者出迎え	8
11. 投手の動揺を誘うような発声	8
【Ⅳ 審判員】	8
1. 裁定	8
2. 審判注意事項	8
【Ⅴ グラウンドでの取り決め事項】	9
1. 砧球場 A面本部席	9
2. 試合前の練習及び練習場所・空きスペースの利用 等	9
3. 特別グラウンドルールについて	10
◆ 雨天時等の場合の試合有無・試合結果・トーナメント表の確認	10
[別紙1] 制限時間規定(解釈)について	11
[別紙2] リーグ戦順位決定方法(学童部)	12
[別紙3] 学童における1週間に係る投球制限の考え方	14

【 I 競技運営に関する注意事項】

1. チームの編成 背番号

チームの編成、登録は男女を問わない。

- (1) 監督 1 名、コーチ 2 名以内、選手は 9 名以上とする。
- (2) 背番号は監督 30 番(監督代行は、29 番もしくは 28 番とする)、コーチ 29 番・28 番、主将を 10 番として、選手は 0 番から 99 番(30、29、28 番は除く)までとする。

2. 選手登録

- (1) 全日本大会・関東大会・くりくり大会及び新人戦等トーナメント戦(スポ少大会は除く)の選手登録申請の切期限は、チーム初戦までに砧グラウンド A 面本部へ連盟指定登録申込書の提出とする。
又、対象のトーナメントに於ける選手登録申請の切後の選手の追加、変更並びに背番号の変更は認めない。
- (2) スポ少大会・リーグ戦は、試合単位の登録変更を認める。すなわち、随時試合開始前の登録変更届提出によって正規登録とし、出場することができる。
- (3) 中体連(公財・日本中学校体育連盟・東京都中学校体育連盟野球部)との二重登録は認める。
- (4) 学童部選手(6 年生)の中等部大会への出場は、正式登録申請の上、秋の大会に限り認める。
- (5) 選手移籍の規定
「目黒区少年軟式野球連盟理事会内規」に準ずる。

3. ベンチ入り人数

- (1) **統一**されたユニフォームを着用した監督、コーチ 及び 選手 9 名以上 25 名以内と、チームユニフォームを着用しない引率責任者、スコアラーの各 1 名とする。
【注 1】学童の大会に於いては公認指導者登録証保有者*1(監督(背番号 30)、コーチ(背番号 29、28)または代表のいずれか) 1 名以上が、ベンチ入りする必要がある。
*1) JSP0 公認スタートコーチ(以上)、JSBB 公認学童コーチ、BFJ 公認指導者基礎 I
【注 2】スポ少大会は、JSP0 公認コーチ、公認スタートコーチ、公認スポーツコーチングリーダー、旧スポーツ少年団認定員のいずれか 1 名以上が、ベンチ入りする必要がある。
【注 3】公認指導者登録証保有者がベンチ入りできない場合や、登録証(Web マイページ可)を携行できない場合、1 回目は理事会に報告の上厳重注意、2 回目からは正副理事長にて処分を決定する。
- (2) 熱中症対策のため、保護者 1 名 以内を健康管理者としてベンチに入れることができる。健康管理者は指定のストラップホルダーを装着し、試合終了後、速やかに本部席へ返却する。

4. ベンチ・攻守の決定

- (1) トーナメント戦のベンチは組み合わせ番号の若い方を 1 塁側、他方を 3 塁側とする。
- (2) リーグ戦のベンチは日程表の左側を 1 塁側、右側を 3 塁側とする。
- (3) **トーナメント戦、リーグ戦共に、攻守は審判員の立会いのもと両チームの主将(不在時は代理)によるジャンケンで攻守を決定する。**

5. 全日本大会・スポ少大会のシード権の規定

前年度新人戦の「1 位：第 1 シード」「2 位：第 2 シード」「3 位・4 位：第 3・4 シード」とする。(トーナメント単位に、第 3・4 シードを入替る場合がある)

【注】前年新人戦 3 位決定戦が未開催の場合、優勝チームに敗れたチームを第 3 シードと扱う。

6. リーグ戦規定

- (1) リーグ戦にてグループ分けを行なう場合
前年新人戦順位「1位・4位を A グループ」「2位・3位を B グループ」にそれぞれシードとして配し、以降の順位は抽選とする。
【注】前年新人戦3位決定戦が未開催の場合、優勝チームに敗れたチームを3位と扱う。
- (2) 規定回数終了時又は制限時間を過ぎて同点の場合はタイゲームとし、「本規定：I 12. 項の特別方式(タイブレイク方式)」を適用する。
- (3) 順位は以下の規定で決定される。
 - 学童部〔別紙2〕リーグ戦順位決定方法(学童部)参照
下記の①～③の優先順で順位を決定する。
 - ① 勝率で順位を決定とする。
 - ② 複数チームが同率で並んだ場合は、当該チーム間の対戦成績で決定する。
 - ③ ②の対戦成績でも決定できない場合は、順位決定戦で決定する。
順位決定戦でも決定できない場合は2回目の順位決定戦は行わず抽選とする。
また、日程及びグラウンドに余裕が無い場合も、抽選とする。
 - 中等部
下記の④～⑨の優先順で順位を決定する
 - ④ 勝ち点の多いチーム。(勝ち：3点, タイブレイク勝ち：2点, タイブレイク負け：1点, 負け：0点)
 - ⑤ 総失点(特別延長の失点は含まない)の少ないチーム。
 - ⑥ 総得点(特別延長の得点は含まない)の多いチーム。
 - ⑦ 総失点(特別延長の失点を含む)の少ないチーム。
 - ⑧ 総得点(特別延長の得点を含む)の多いチーム。
 - ⑨ 上記④～⑧が同点の場合、当該チーム同士のリーグ戦に於ける勝利チーム。
- (4) 順位決定トーナメント組合せ方法
A組、B組でリーグ戦分けした場合の順位決定戦。
(「別紙2：リーグ戦順位決定トーナメント」参照)

7. 集合・メンバー表の提出

チームは試合開始予定時刻の30分前に集合、同様に試合開始予定時刻の30分前までに連盟指定のメンバー表3部を審判席へ提出し、審判団による登録書(事前に申請された連盟指定登録申込書)との照合・検印の後、検印済みメンバー表「控え」1部を自チーム用として受け取ること。

遅刻する選手・コーチ等がある場合は、予め提出用メンバー表に記載し、その旨申告すれば出場可能とする。(到着次第、必ず球審へ申し出ること)

メンバー表に公認指導者登録証保有者*1を明示するとともに、提出時に同行して登録証(Webマイページ可)を提示すること。

*1) JSP0 公認スタートコーチ(以上)、JSBB 公認学童コーチ、BFJ 公認指導者基礎 I

8. 棄権

- (1) 試合開始予定時刻になっても試合開始できないチームは「棄権」とする。
- (2) 試合開始時及び終了時に選手が9名以上いないチームは棄権とみなす。
- (3) 試合前日までに棄権を申し入れる場合は、運営担当・相手チーム・連盟審判部長へ連絡すること。尚、前日までに棄権の申し入れを受けたチームは不戦勝となり、当日グラウンドに来なくても良い(審判当番はグラウンドに来て審判を担当すること)。
但し、雨天等で日程が順延された場合は、棄権の取消しが可能となる。
- (4) 無断欠場・・・始末書を連盟理事長並びに相手チームへ提出すること。

9. 規定回数、試合時間

本連盟公式戦の規定回数及び試合時間(制限時間)は以下とする。

尚、それぞれ制限時間に達した回を最終回とし、新しいイニングに入らないこととする。

(※時間制限の解釈等は「別紙1：制限時間規定(解釈)について」を参照)

- (1) 中等部 …… 規定回数：7回戦、制限時間：90分
- (2) 学童部 …… 規定回数：6回戦、制限時間：90分
- (3) 学童部(低学年) …… 規定回数：5回戦、制限時間：70分

【注1】低学年大会は、制限時間規定の適用時でも最低1回の表裏を終了させること。

【注2】低学年大会(春季・秋季共に)は、アウトカウントに関わらず、1回10得点で攻守交替とする。規定回数と制限時間の変更は変更なしとする。

10. 試合の成立

暗黒降雨等による正式試合の成立は、4回完了時点とする。即ち、4回完了できなかった時は再試合とする。又、学童部低学年大会は3回完了時点とする。

4回(学童部低学年大会は3回)以前でも規定時間に達したならば試合ゲームは成立する。

11. 給水タイム

守備の時間が長い場合(夏期 概ね20分)には健康維持を考慮し、審判の判断で給水タイムを設けることとする(ロスタイムとしない)。

12. 特別方式(タイブレーク方式)と抽選による勝敗の決定

全ての試合において延長戦は行わず、規定回数完了時又は制限時間を過ぎて同点の場合は、「特別方式(タイブレーク方式)」を適用し試合を続行する。

■特別方式(タイブレーク)方式

継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者として2塁の走者は順次前位の打者とする。

即ち、無死走者1・2塁で継続打順の状態にして試合を行なう。

但し、最大2イニングまでとし、勝敗が決しない場合は抽選によって勝敗を決定する。

13. 得点差によるコールドゲーム

コールドゲームの得点差は下記の規定回数と得点差で成立とする。

- (1) 中等部 …… 4回 10点、5回以降 7点以上の得点差
- (2) 学童部 …… 3回 10点、4回以降 7点以上の得点差
- (3) 学童部(低学年) …… 3回 10点、4回以降 7点以上の得点差

14. 特別継続試合

暗黒降雨等で、試合成立回以降に同点で試合が継続できない場合のみ、特別継続試合とする。

15. 抗議のできる者

抗議のできる者は、監督か当該プレイヤーとする。

【注】監督は、選手交代及び抗議を告げる場合は、ユニフォーム姿で行わなければならない。(グラウンドコート・ジャンパー等は脱ぐこと)

16. 試合準備(ベンチ入り後のグラウンド内立ち入り)

ベンチ入り後(試合用具をベンチに置いた以降)は、選手及び監督(30番)、コーチ(29番・28番)以外はグラウンド内に立ち入ることはできない。

17. 投手の投球制限

(1) 中等部

投手の投球制限については、肘・肩の障害防止 を考慮し、下記の通りとする。

・大会中の1日の投球数…100球

※試合中に100球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。

・1週間の投球数…350球

(2) 学童部

1人の投手は、1日70球(低学年は60球、以下同様^{*2})以内を投球できる。

トーナメント戦(新人戦ならびに低学年大会は除く)に於いて4年生以下の選手の投手は不可とする。新人戦ならびにリーグ戦に於ける4年生以下投手は1日の50球以内以下同様^{*2}(投手本塁間16m)とする。メンバー表に記載する4年以下選手の背番号を丸で囲み申告する(4年以下選手の申告を故意に怠ったと判断し、且つその選手が規定投球数50球を超過した場合はその試合は失格となる場合がある)。

試合中に70球^{*2}に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。

1試合中(同試合)に投手が他のポジションへ行って、また投手に戻った場合は、残りの球数(合計70球^{*2})を投げることができる。

同日ダブルヘッダーの場合、1試合日に投げた投手は、2試合日には残りの球数(合計70球^{*2})を投げることができる。

1週間の投球数…210球以内(4年生以下は180球以内)とする。運用は[別紙3]に拠る。

18. タイム(回数制限等)

(1) 1試合に於ける取得できるタイムの回数は以下とする。

a) 7回戦(中等部大会)、6回戦(学童部大会)：守備・攻撃タイム共に「3回以内」とする。

b) 5回戦(学童部低学年大会)：守備・攻撃タイム共に「2回以内」とする。

c) 特別方式(タイブレーク方式)適用時：守備・攻撃タイム共に「1回」とする。

攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば、守備側も1回とカウントされる。また、逆の場合も同様。

(2) タイムは1分間を限度とする。但し、審判員が認めた場合はこの限りではない。

(3) 試合中、選手が意図的にスパイクの紐を結び直すためのタイムは認めない。

【注1】 試合中に捕手又は内野手が、投手の所に集まることは“守備タイム”となる。そこへ監督が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督のみ回数には含まない。

【注2】 審判員がタイムを宣言しない限りボールインプレイである。

【Ⅱ 用具、装具、ユニフォーム等について】

用具、装具及びユニフォームは、次に定められたもの以外は使用できない。

1. バット

(1) 金属・ハイコンバット(複合)はJ.S.B.Bマークをつけた連盟公認のものに限る。木製は除く。

(2) 「全軟野連発第366-3号」を適用し、学童部では一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・複合(金属/カーボン)バットについては、使用制限を行わない。

また、軟式少年用バットの使用制限は行わない。

なお、各グラウンドに於ける使用制限がある場合はこれを優先し遵守すること。

- (3) 素振り用パイプ及びリングの使用を禁止する。
- (4) 脱着可能な後付けグリップの使用は認めない。

2. 捕手の装具

捕手及び控え捕手は、J.S.B.Bマーク、S・Gマークのついた連盟公認のマスク(スロートガード付、もしくは一体型)、レガーズ、プロテクター、J.S.B.Bマーク、S・Gマークのついた捕手用ヘルメット、ならびにファウルカップを装着しなければならない。

【注1】「“正”・“控え”捕手」を問わず、着用は準備投球時にも同様とする。

【注2】捕手用具は、控え捕手用を含めて複数組用意すること。

【注3】準備投球の際やブルペンでも装着すること。

3. ヘルメット

打者、次打者、走者は及びベースコーチは連盟公認の J.S.B.B マークならびに S・G マークの入った両側にイヤーフラップが付いたヘルメットを必ず着帽しなければならない。

顎ガード付きヘルメットは後付け(改造)で無いものに限り使用を認める。

4. 使用することができない用具

以下の事項に該当する用具は、「JSBB 公認」でも使用することができない。

- (1) JSBB 公認マークが無いもしくは消えているもの。
- (2) 破損が認められるもの。
(キズ・へこみ・ひび割れ等、及び緩衝材[ヘルメット内パッド含む]等のパーツの欠如等、安全面での信頼性が確保できないもの)

5. 試合前の用具点検・確認

- (1) 試合前には必ず用具点検・確認が行われる。
この際、本項に定める基準に達していないと判断された用具については、選手の安全面を考慮し、当該試合から取除かれることがある。
- (2) 取除かれた用具は、試合終了まで「本部席にて預かる(使用不可)」こととし、試合終了後対象チームへの返却とする。
【注】選手のケガ防止の為に、日頃から用具点検を行ない、予備用具の準備をすることが望ましい。

6. ユニフォーム及び、スパイク等

ユニフォーム及び、スパイク等は、次に定めるものを着用しなければならない。

- (1) 同一チームの監督、コーチ及び、選手は全員 同色、同形、同意匠のユニフォームでなければならない。 ロングスタイルのユニフォームパンツ(ストレートパンツ)の着用は禁止する。
- (2) アンダーシャツは全員同色のものでなければならない。
- (3) 帽子は、全員 同色、同形、同意匠のもの。また、ストッキングは全員同色、同形、同意匠のものでなければならない。
- (4) スパイクの色は原則自由とし、全員が同色でなくても構わない。但し、本連盟は同色・同柄で揃えることが望ましい。
・学童部は、金属ブレードスパイクの使用は出来ない。運動靴は使用しても良い。
- (5) サングラスは大会本部の承認なしに使用できる。但し投手はミラー(反射する)タイプのものは使用できない。なお、帽子の上へのせることは禁止する。
- (6) ネックウォーマーの使用を認める。
- (7) 選手以外のベンチ入りの服装
 - ・「監督・コーチ」はユニフォーム(登録背番号)。
 - ・「引率責任者」、「スコアラー」、「健康管理者」はユニフォーム以外の服装

(審判服は可、公式戦ベンチに相応しい服装)でなければならない。

- ・「引率責任者」、「スコアラー」はチーム帽子を着用し、連盟指定の名札を自チームで用意したストラップホルダーに入れ装着しなければならない。
- ・「健康管理者」は審判本部から貸与されるストラップを着装しチーム帽子は着用しない。

7. ベンチ内でのスコア記録のための電子機器使用

- ・電子スコア記録用(撮像等禁止)として1台の使用を認める。紙によるスコアブックとの併用は認めない。

【Ⅲ 禁止事項、試合のスピード化等、その他に関する注意事項】

1. 学童部投手の変化球

学童部の投手は変化球を投げることを禁止する(変化球に対しては、球審は“ボール”を宣告する)。

2. ネクストバッターズサークル(次打者席)

次打者席は自軍側を使用し、打席につく際は不要なバットを次打者席に置いてはならない。次打者席で投球に合わせて素振りをしてはならない。

3. バッターズボックス

打者は速やかにバッターズボックスに入ること。またバッターズボックス内でベンチ等からのサインを見ること。

4. 攻守交代

- (1)攻守交代は、“小走り”でスピーディに行なうこと。実行しない場合は、審判員が注意を与える。
- (2)攻守交代時に最後のボール保持者は、必ず投手板にボールを置いてベンチに戻ること。

5. 前進守備時の野手の位置

故意に打者を惑わすことと野手の安全を考慮して塁間の半分を目安として、投手がリリースするまでその位置に留まること。

6. バッテリーのサイン交換

投手が捕手のサインを見る時は、必ずプレート板について見ること。

7. 準備投球

投手は、初回に限り1分を限度に7球以内、次回からは4球以内の準備投球が許される。

【注】代理キャッチャーは、原則控え選手が行なうこととし(捕手用器具全てを着用)監督・コーチが代理キャッチャーをする場合は、審判に許可を得ること(グラウンドコート・ジャンパー等は必ず脱ぐこと)。

8. ベンチでの準備(練習)投球

ベンチでの準備(練習)投球は、自軍のベンチより外野側のファウルエリア内(守備側の邪魔にならない場所)のみブルペン相当として行なって良い。但し、投手及び捕手の1組とし、捕手は選手のみとする(監督・コーチは捕手を行なえない)。

9. ボーク

ボークは、最初から適用する(学童部低学年も同様とする)。

10. 本塁打の打者走者出迎え

本塁打の打者走者を迎える場合は、ベンチの前のみとする。

11. 投手の動揺を誘うような発声

攻撃側は投手が投球動作を開始したら投手の動揺を誘うような声を発してはならない。

【IV 審判員】

1. 裁定

審判員の裁定は、「野球規則 8. 0 2」に準ずるものとする。

2. 審判注意事項

- (1) 審判員は、担当する試合時間の 40 分前までにグラウンドに到着し、試合の準備を行なう。(第 1 試合の担当審判員は、60 分前集合を心掛ける)
- (2) 試合を定刻(予定時刻)前に開始する場合、30 分以内は審判団の判断のみで開始できるものとする。但し、30 分以上早める場合は、必ず両軍監督の了承を得なければならない。
- (3) 担当審判員(控え審判員含む)は、試合開始前に事前ミーティングを行い、グラウンドルール・打球判定区分・フォーメーション等の確認を行なう。
- (4) 審判員は、必ず試合前に両チームの用具点検を行なう。
- (5) 試合開始予定時刻の 10 分前には両チームの選手をベンチ前に整列させ、メンバー表とベンチメンバー(選手・監督・コーチ)の確認を行なう。
- (6) 控え審判員は、試合開始(1 回表：最初のプレイのコール)と共に「タイマーをスタート」し、1 回表攻撃終了時点で、速やかに両チームに試合開始時刻を伝えること。又、タイマーが鳴ったら(規定の試合制限時間に達した状態)、球審に通告し、球審が両チームへ最終回もしくは最終打者であることを通告する。
- (7) 試合制限時間規定(解釈)に於ける攻守の交代(時間のくぎり)は、それぞれの“攻撃終了の時点”とする。(攻撃終了の瞬間から攻守が入替っている)
※ 詳細は「別紙 1：制限時間規定(解釈)について」を参照

(8) 監督が球審をする場合は、以下の条件で認める。

- ① 過去の経験及び実績
- ② 審判講習会への参加実績がある
- ③ 両チームの了承を得る

【注】監督が塁審をする場合は、上記の条件に関係なく許可する。

- (9) 控え審判員は、審判服・審判帽子・審判スラックス(オーバーパンツ、トレーニングパンツは認めない)を着用し、チーム審判部長もしくは野球規則に精通した者が入ること。これは、少年部大会全てに適用する。
- (10) 試合終了後も控え審判員と 4 人の審判員は、事後ミーティング(反省会)を行ない、試合結果報告書への記入を行なう。
- (11) リーグ戦で新人審判員に球審の実戦経験を積ませることは行なっても良い。但し、塁審にはベテラン審判員を配置する等球審のフォローを行なう体制を作り、当該試合を円滑に成立させる配慮をすること。
- (12) 連盟審判部長(又は代理)は、大会本部席に入ることとする。
- (13) 試合日程等の都合により、審判員が不足している場合は、当該チームから入る場合がある。

【V グラウンドでの取り決め事項】

1. 砧球場 A面本部席

本部役員・審判員及び来賓のみの入席とする。

審判員(審判帽子着用)であっても、チームユニフォーム(上下問わず)姿での入席はできない。

2. 試合前の練習及び練習場所・空きスペースの利用 等

(1) 砧球場

① A・B・F面以外は、「砧管理事務所」の指導・指示に従うこと。

② 試合前のグラウンドでの練習は、次の試合のチームのみが行える。

内容はウォーミングアップ程度(ランニング・ストレッチ・キャッチボール等)とし、選手がバットを使用する場合は、バント練習のみとする。

ノックは、ベンチ前でサイドノックは行なっても良いが、それ以外のバットを使っているノックは行なってはならない。

但し、第1試合開始前及び試合の間に限り、外野のみで1名のノッカーによるノックは行なっても良い。尚、状況により中止させることもある。

サイドノックを行なう際、選手が補助員を行なう場合は、ヘルメットを着用する必要がある。(碑文谷球場も同じくヘルメットを着用すること)

【注】A・B面は、何れか一方でも試合中の場合、外野でのノックは行なってはならない。

③ ベンチ入り後(試合用具をベンチに置いた以降)は、グラウンド内での練習補助を行えるのは「正規登録の監督・コーチ(ユニフォーム着用[背番号:30、29、28])のみ」とする。(「本規定:Ⅱ項-8」)

④ グラウンド内やグラウンド周辺でのバッティング練習は行なってはならない。

⑤ A面において、次試合チーム選手が1塁側デッドラインより外側で投球練習を行なう場合は、応援席及び通行人に十分に注意すること。素振りは禁止する。

指導者並びに保護者は周囲に配慮し、事故防止に努めること。

⑥ B面に於ける中学部大会開催時(試合中)は安全に配慮しA面で試合は行わない。

次のA面での試合のチームの練習は3塁と2塁を結ぶ線の延長線よりA面側に限り可とする。ケアする大人を2人(専任者とする、ノッカー等の兼任NG!)3塁と2塁を結ぶ線の延長線に配置しB面からの打球を看視すること。

B面の試合の邪魔にならないようグラウンドに用具を置きっぱなしにしないこと。

⑦ B面の練習はB面レフトポールとA面ライトポールを結ぶラインよりも川側で可とし、

⑥同様にケアの大人2人をB面レフトポールとA面ライトポールを結ぶライン上に配置しB面からの打球を看視すること。

⑥A面、⑦B面ともにケアの大人2人を出せない場合は練習不可とする。

(2) 碑文谷球場

① グラウンド内以外でのキャッチボール、素振りは禁止する。試合前に、外野でのウォーミングアップは行なっても良いが、審判員の指示に従わなければならない(審判員の判断で、場所の移動・練習中止等の制限あり)。

② 応援席はグラウンド内に設置する。

3. 特別グラウンドルールについて

(1) 砧A面

- ① ライト側に飛んだ打球が、ポールを過ぎてから川沿いのブッシュに入った場合は、ホームランとする。川沿いのブッシュに入ったか入らなかったは審判員の判断とする。
- ② レフト側に飛んだ打球が、ポールを過ぎてからボールデッドゾーンに入った場合は、ホームランとする。
- ③ ライト側・レフト側 共通で、打球がポール過ぎる前(ポールを巻かない)にボールデッドゾーンに入った場合は、ツーベースとする。
- ④ 応援席
 - 1 塁側：1 塁ベンチよりライト側のボールデッドゾーン指定線内とする
 - 3 塁側：バックネット裏の3 塁ベンチ側、指定線内とする。

(2) 砧B面

- ① レフト側に飛んだ打球が、ポールを過ぎてから川沿いのブッシュに入った場合は、ホームランとする。川沿いのブッシュに入ったか入らなかったは審判の判断とする。
- ② ライト側に飛んだ打球が、ポールを過ぎてからボールデッドゾーンに入った場合は、ホームランとする。
- ③ ライト側・レフト側 共通で打球が、ポール過ぎる前(ポールを巻かない)にボールデッドゾーンに入った場合は、ツーベースとする。
- ④ 3 塁側ベンチは、ネット内(ファールエリア)に設置し(指定線内)、その地域にボールが入った場合は、ボールデッドとする。
- ⑤ 応援席
 - 1 塁側：バックネット裏の1 塁ベンチ側、指定線内とする。
 - 3 塁側：3 塁側ネット内(ファールエリア)に設置し(指定線内)
その地域にボールが入った場合は、ボールデッドとする。

(3) 砧F面

- ① 外野のネットを打球が直接越えた場合は、ホームランとする。
- ② ネット手前の縁堰(側溝)及び土手に乗り上げた状態は、フリーとする。
- ③ バウンドもしくはネットの下をくぐって越えた打球の場合、ボールデッドとし、審判員協議の上、打者走者の進塁状況でツーベースもしくはスリーベースとする。
- ④ 応援席
 - 1・3 塁側共通：それぞれのベンチより外野側のボールデッドゾーンの指定線内とする。

(4) 碑文谷球場

- ① 外野ネットを直接越えた打球の場合は、ホームランとする。また、バウンドした打球がネットを超えるか、ネットをくぐった場合、ボールデッドとし、ツーベースとする。
- ② 応援席
 - 1・3 塁側共通：グラウンド内の指定線内とし、その地域にボールが入った場合はボールデッドとする。設置場所は両ベンチより外野側のファールエリアとする。
- ③ 高反発バットの使用制限
「目黒区立碑文谷野球場のご利用について」に従い、一般用、少年用ともに高反発バットの使用を禁止する。また安全管理者(危険を知らせる声掛け要員)をフェンスそばに配置すること。

以上

◆ 雨天時等の場合の試合有無・試合結果・トーナメント表の確認

目黒区少年軟式野球連盟公式サイト(URL：<http://mssb.az2.jp/>)を参照

[別紙1] 制限時間規定(解釈)について

《ケース1：後攻リードの場合》

五	六	七	規定(解釈)詳細
0	0	←	ここでタイマーが鳴りました。 この回が最終回。 先攻0点なら試合終了。
1		←	ここでタイマーが鳴りました。 <u>タイマーが鳴った時点の打者を最終打者とし、その打者の攻撃終了時点で試合終了。</u>

《ケース2：先攻リードの場合》

五	六	七	規定(解釈)詳細
0	1	←	ここでタイマーが鳴りました。 この回が最終回。
0		←	ここでタイマーが鳴りました。 0点なら試合終了。 1点(同点)ならタイゲームで特別方式適用。 <u>後攻逆転の時点で試合終了。</u>

※本規定の適用は、規定回数最終回時又は制限時間に達した時点とする。

※攻守の交代(時間のくぎり)は、それぞれの“攻撃終了の時点”となる。

※適用回数は、当該試合の状況で読み替えること。

[別紙 2] リーグ戦順位決定方法(学童部)

- ① 勝率で順位を決定とする。
- ② 複数チームが同率で並んだ場合は、当該チーム間の対戦成績で決定する。
- ③ ②の対戦成績でも決定できない場合は、順位決定戦で決定する。
順位決定戦でも決定できない場合は 2 回目の順位決定戦は行わず抽選とする。
また、日程及びグラウンドに余裕が無い場合も、抽選とする。

例 1 3チーム同率の場合

例 1-1 チーム A、B、C の対戦成績が明確な場合

	A	B	C	勝敗
A	○	○	○	2-0
B	×	○	○	1-1
C	×	×	○	0-2

対戦成績通りに
Aが1位、Bが2位、Cが3位とする。

例 1-2 チーム A、B、C の対戦成績が均衡（1勝1敗）の場合

	A	B	C	勝敗
A	○	○	×	1-1
B	×	○	○	1-1
C	○	×	○	1-1

対戦成績が対等なので、③番の規定で決定戦か抽選とする。

例 2 4チーム同率の場合

例 2-1 3チームの時と同様に、対戦成績がわかりやすい場合はそのまま決定する。

	A	B	C	D	勝敗
A	○	○	○	○	3-0
B	×	○	○	○	2-1
C	×	×	○	○	1-2
D	×	×	×	○	0-3

対戦成績通りに
Aが1位、Bが2位、Cが3位、Dが4位とする。

例 2-2 チーム A が 3 勝 0 敗、B、C、D の対戦成績が均衡（1勝2敗）の場合

	A	B	C	D	勝敗
A	○	○	○	○	3-0
B	×	○	○	×	1-2
C	×	×	○	○	1-2
D	×	○	×	○	1-2

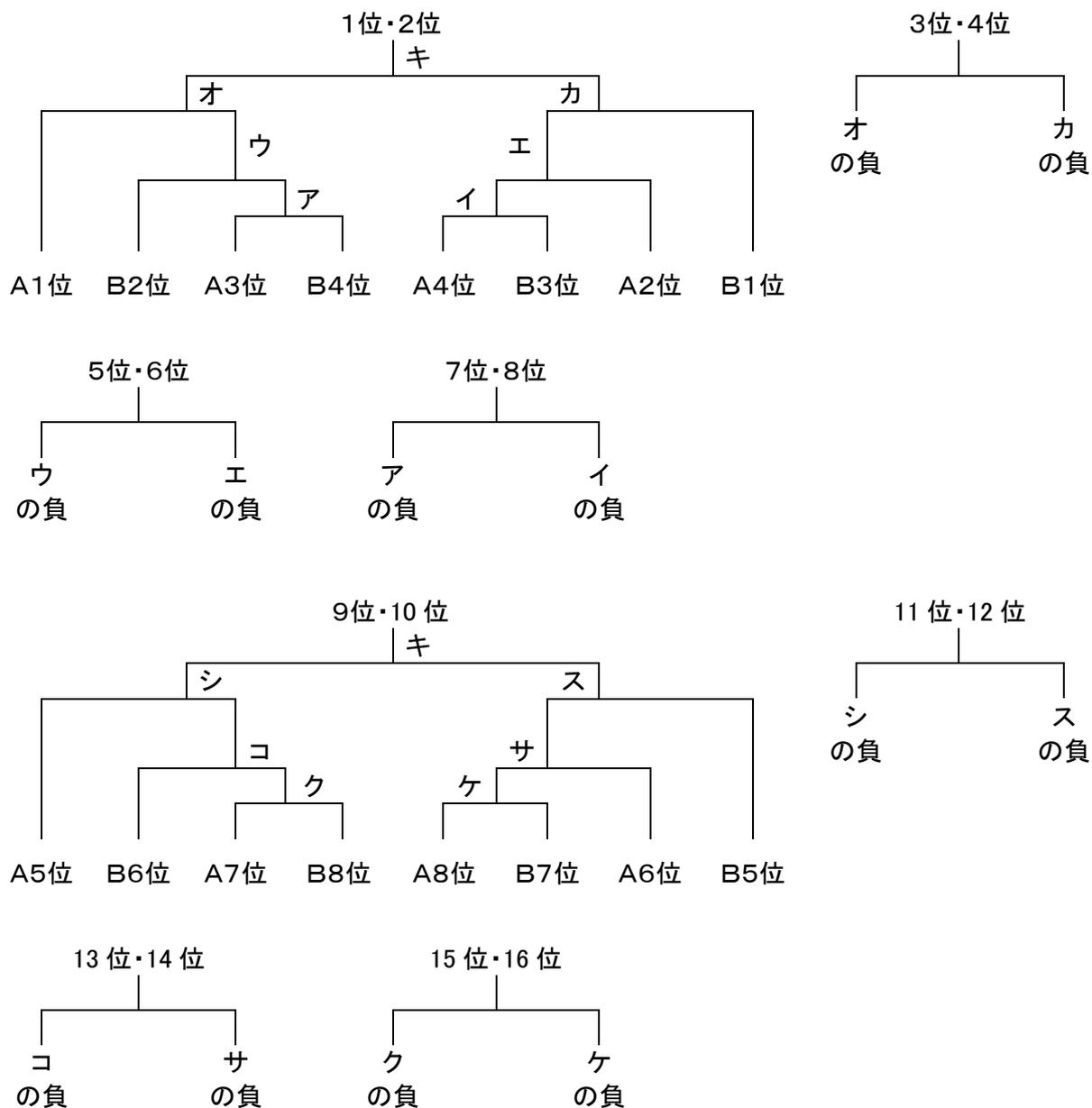
Aが1位、B・C・Dにて順位決定戦(抽選)を行ない、2位、3位、4位を決める。
逆に、Aが0勝-3敗の場合4位となる。

例 2-3 チーム A、B、C の対戦成績が均衡（1勝1敗）の場合

	A	B	C	D	勝敗
A	○	○	×	○	2-1
B	×	○	×	○	1-2
C	○	○	○	×	2-1
D	×	×	○	○	1-2

AとCとで1位/2位の順位決定戦(抽選)を行ない、BとDで3位/4位の順位決定戦(抽選)を行なう。

※ A/B 2グループにグループ分けした場合のリーグ戦順位決定トーナメント



※ 順位決定戦を各々行う

[別紙 3] 1週間に係る投球制限の考え方

本投球制限を導入するにあたり、選手の投球過多による障害発生を予防するための取り組みであることを念頭におき、各チームの指導者をはじめ大会を運営する目黒区少年軟式野球連盟として、本制限を遵守する。

- 大会メンバー表提出時での自己申告を基本とする。
- 各チームにおいては、本投球制限の主旨を理解し、選手のけが防止等につとめること
練習試合、自主開催大会等の試合での投球数を制限することとする。

■投球制限 1週間 210球（180球）の考え方

当日を含めて、過去6日前までの累計投球数が210球(180球)となるように管理する
当日に何球投げられるかについても、チームでの管理とする。

例1 高学年低学年共通

投球実績						
当日	前日	2日前	3日前	4日前	5日前	6日前
70(60)球	70(60)球	—	—	—	—	70(60)球
前日までに140(120)球なので、当日は1日の制限数いっぱいまで投球することが可能						

例2 高学年低学年共通

投球実績						
当日	前日	2日前	3日前	4日前	5日前	6日前
70(60)球	40球	—	—	—	30球	30球
前日までに100球で制限まで110(80)球ではあるが、当日は1日の制限数いっぱい70(60)球まで投球することが可能						

例3 高学年

投球実績						
当日	前日	2日前	3日前	4日前	5日前	6日前
20球	50球	—	—	—	70球	70球
前日までに190球で制限まで20球であるので、当日は20球まで投球することが可能						

※ 210(180)球で強制的に交替ではなく、210(180)球目の打者の打撃完了または攻守交替まで投球可とする。

※ 中等部の1週間350球も考え方は同じとする。

